

社会医療法人岡本病院(財団) 理事長 岡本 豊洋氏

interviewer 頭取 高橋 祥二郎 宇治支店長 水口 栄寿

患者さんにどこまでも寄り添う医療目指し  
慈しみと愛の心で地域に奉仕したい。

1世紀余りも地域医療へ献身的に取り組んできた社会医療法人岡本病院(財団)。2009年に京都府初の社会医療法人に認定されたのを機に、「より公益性の高い医療」を目指してきた。この春、「京都岡本記念病院」を新築移転し、地域医療をさらに進化させる。



社会医療法人岡本病院(財団)  
理事長 岡本 豊洋(おかもと・とよひろ)氏

1943年生まれ。70年、京都大学医学部卒業。73年から医療法人岡本病院(財団)に勤務。第一岡本病院整形外科部長、第一岡本病院院長等を経て90年、理事長に就任。京都私立病院協会副会長などの公職を務める。2009年に保健医療功労者救急医療部門表彰(京都府知事)、12年に公衆衛生事業功労者表彰(厚生労働大臣)を受ける。

「我は医師 雨にも雪にも嵐にも  
深夜の往診 拒みたるなし」

高橋 「この人はわが子、わが親、わが兄妹」。岡本病院憲章に掲げるこの信条が物語るように、全ての患者さんに家族のように寄り添い、愛情とぬくもりが通った医療の提供に心を砕いておられる社会

医療法人岡本病院さん。京都市伏見区の伏見岡本病院第一岡本病院から改称と、このたび宇治市から久御山町へ新築移転した京都岡本記念病院(第二岡本総合病院から改称)の二つの病院をはじめ、クリニックや介護施設等を運営され、地域の生命と健康を支えておられます。

市井の医療に汗を流された姿が目につかぶようです。

岡本 医療が「仁術」の道であれば、富む人よりも貧しい人にこそ奉仕しよう。そんな気概で医療に取り組み、苦勞も味わったようです。「我は医師 雨にも雪にも嵐にも 深夜の往診 拒みたるなし」。奮闘の中で詠んだこの句が岡本病院の姿勢を象徴しています。この精神は「24時間・365日断らない救急医療体制」など、現在の体制にも受け継がれています。

水口 隆一先生は衆議院議員を務められ、国政にも携わられたそうですね。

岡本 医師の立場では抗えない社会問題を解消しなければ、真の人の助けはできない。そう考えての活動であったようです。その精神、その姿勢こそ私どもが受け継いだ遺産であり、「この人はわが子、わが親、わが兄妹」の信条として、いまでも日々の医療行為の中で息づいています。

「公益性の高い医療」を担う  
社会医療法人に京都府で初の認定

高橋 2009年に社会医療法人の認定を国から受けられたことに、「深夜の往診 拒みたるなし」の精神の継承を感じますね。

岡本 「へき地医療」「周産期医療」を合



循環器治療に欠かせない血管撮影装置

本豊蔵が伏見に岡本病院を開業して以来、110年にわたって、患者さんと心が通いあう距離での地域医療の道を歩んできました。34年に、父の岡本隆一が事業を引き継ぎ、内科と小児科の診療所を開設。この診療所が伏見の地に根をおろして、地域医療に取り組み第一岡本病院に発展してきました。

高橋 オートバイにまたがって往診される往時の隆一先生の写真を拝見すると、まるで「赤ひげ先生」ですね。高潔な精神で



災害時には、緊急避難場所として使用可能な広いエントランスホール

む「小児医療」「救急医療」「災害医療」といった「公益性の高い医療」はこれまで自治体運営の病院が担ってききましたが、自治体での維持が難しくなっています。私たち地域医療を支える医療法人にその役割の分担が求められています。これが「従来よりも公益性が高い医療法人」を意味する社会医療法人であり、もとより「地域の公器」たらんことを掲げてきた私どもは、率先して手を挙げ、京都府で初の認定を受けました。

高橋 79年の開設以来、宇治で地域密着型医療に励んでこられた第二岡本総合病院さんが、5月1日、久御山町に新





高度ながん治療を進める放射線治療装置(リニアック)の前で、右から高橋頭取、岡本豊洋理事長、水口支店長

築移転し京都岡本記念病院と改称されました。社会医療法人としての機能充実も移転の目的の一つですね。

**岡本** 236床から始まった第二岡本総合病院は、宇治での急性期医療を支える基幹病院として発展を遂げ、87年には454床(現在は419床)に増床。京都府から「地域がん診療連携協力病院」の指定や「地域医療支援病院」の認定を受け、「京都府災害拠点病院」にも指定されました。しかし、開院から30年以上が経過して建物が老朽化。病院の施設基準も

体制が整っておられます。

**岡本** 私どもの病院で過ごす期間だけでなく、退院後の生活までを支えるのが医療の役割だと考えています。岡本病院の力だけでは患者さんを包括的に支えることはできません。地域に根を張っておられる各開業医院と連携を図ってこそ、私どもの役割を全うすることができま。そこで、私どもでは「二人主治医制」の普及に取り組んでいます。

**高橋** 患者さんの容態や病歴、パーソナリティまでご存じの開業医の先生と、高度な専門医療を提供できる岡本病院の医師が連携することで、より安心・安全な包括医療の提供を目指されるのですね。

**岡本** 日頃の細やかな診療や、専門的な検査・治療の必要性の判断などは開業医の先生が、専門的な診断や治療、急変時の対応は当院の医師が受け持つと

年を追って厳しくなり、宇治市での建て替えが難しくなってきたことから、久御山町への新築移転を決めました。新たに病院をつくるからには、「いま社会が求める医療」を実現できる体制に生まれ変わらなければなりません。その期待に応えられる病院に再生できたと思っています。

### 地域を支え、地域に支えられるために「救急医療」「災害医療機能」を充実

**岡本** 社会医療法人として担うべき「公益性の高い医療」のうち、当院は「救急医療」と「災害医療」による地域社会への貢献を目指しています。「救急医療」については、救急依頼を無条件に受け入れる「24時間・365日断らない救急医療」をモットーに、周辺地域からの1次救急はもちろん、高度な専門医療が求められ他の医療機関から搬送される2次救急、3次救急にも対応。広くなった建物を生かし、救急車の受け入れから緊急手術に至るスムーズな導線を確認しました。内科、外科、SICU(脳卒中集中治療室)で当直体制をとるなど幅広い疾患の患者さんに対応し、適切な処置ができる救命救急

いうように、一人の患者さんに対して開業医の先生と当院の医師、どちらもが主治医となるのが「二人主治医制」です。常に患者さんの病状等、状況に応じて役割分担し、連携・情報交換を行うことで、患者さんに、より安心・安全な包括医療を提供できると考えます。もちろん開業医の先生方だけでなく、地域の他の医療機関との連携も強化して、地域で完結する医療システムを目指します。

### 不透明な医療の明日を「慈仁」の光で照らしたい

**高橋** 高齢の患者さんを社会が総力を挙げて支えるべき時代がやって来たと感じますね。団塊世代が後期高齢者になる2025年以降の医療を考えると、「より安価な医療」「地域主体の医療」が必然的に求められるでしょうし、人口減

機能を充実させた体制で臨んでいます。**高橋** 生命の灯をつなぐ「救急医療」は、休日でも深夜でも待たなすからね。災害拠点病院としては、以前から災害派遣医療チーム「DMAT」を院内で編成され、要請があれば、速やかに災害現場へ派遣してこられました。

**岡本** 「DMAT」は専門的な訓練を受けた医師や看護師等で構成するチームで、当院では3チームを擁して、集中豪雨等の大規模災害や甚大な事故の現場への派遣を行ってきました。一方、地域の災害拠点病院としての機能充実については、激甚災害等が周辺地域を襲った場合、住民の皆さんに緊急避難施設として利用いただける建物を目指しました。「地域に開かれた病院」として、広いエントランスと外来エリアの廊下、講堂では約500人



8室の手術室がずらりと並び

少による医療従事者不足も深刻化するでしょう。

**岡本** 医療機関の淘汰が進むことは間違いありません。その中で地域医療をどう守っていくか。そこが、私どもが全力を注ぐべき課題だと考えています。先ほどから話題にのぼっている「地域包括医療」が大きなカギになるでしょうから、医療機関の連携をさらに進めなくてはなりません。競合病院の連携はそう簡単ではないでしょうが、取り組まなくては、健全な地域医療を将来に残せません。

**高橋** 「地域密着型金融」を目指す当行と同じく、徹底して「地域のために」を第一にお考えなのですね。

**岡本** 地域を支え、地域に支えられる病院であり続けるためには、患者さんの気持ちにまで寄り添い、救命救急、がん治療、循環器医療を中心とした高度で専門的

受け入れ可能なエリアを確保。災害時には多くの住民の方々に避難していただけます。また、屋上に救急ヘリポートを設置。さらに停電時には全体の60%程度カバーする自家発電装置、医薬品や飲料水の備蓄などの備えも万全です。

**水口** 屋上の救急ヘリポートは災害時、救急時のどちらにも威力を発揮しそうですね。

**岡本** ヘリポートから眺望すると、第二京阪道路久御山インターがすぐ近くにあり、この地が、広域エリアからのアクセスに恵まれていることが実感できます。**診療所と連携する地域包括医療で患者さんの退院後までも支える**

**高橋** 最新の放射線治療装置(リニアック)を導入して高度ながん診療の充実を図り、ICU(集中治療室)の増設で急性期医療分野をさらに充実されるなど、新病院のこれからの活躍に期待が高まります。岡本病院グループでは、二つの地域基幹病院の他に「おかもと総合クリニック」「あすなる岡本診療所」など地域密着型のクリニックや、居宅介護支援事業所、訪問看護ステーションといった介護福祉分野の事業も手掛けられ、急性期から慢性期、リハビリテーションから介護まで、患者さんを包括的に支える

な医療からリハビリテーション・介護までを提供して、「生きる」全てを支えなくてはなりません。「雨にも雪にも嵐にも深夜の往診 拒みたるなし」。この姿勢こそが、地域から支えていただく大きな要因になると信じています。京都岡本記念病院の新築移転を機に、私どもが継承してきた医療の心を二文字の理念に表しました。「慈仁」。救いを求める人を慈しむ心、深く愛する心です。社会医療法人岡本病院は、困難も予想される地域医療の明日を、「慈仁」の光で照らしてまいります。



**高橋** 私どもも金融機関も「慈仁」の心を尊び、地域社会との共存共栄を図っていきます。本日はありがとうございます。

## 岡本病院憲章

岡本病院の使命は、医療を以って地域住民に奉仕することにある。そのために職員は「この人はわが子、わが親、わが兄妹」といった気持ちで患者に接しなければならない。

この言葉は「いつでも、だれでも、よい医療を」ということに通じる。

(1979年4月制定 岡本病院憲章より抜粋)

### 法人概要

## 社会医療法人岡本病院(財団)

- 伏見岡本病院(旧:第一岡本病院)/  
京都市伏見区京町9-50
- 京都岡本記念病院(旧:第二岡本総合病院)/  
京都府久世郡久御山町佐山西ノ口58
- あすなる岡本診療所/宇治市伊勢田町南山47-1
- おかもと総合クリニック/宇治市神明石塚54-18
- URL/http://www.okamoto-hp.or.jp/

### 沿革

- 1906年 京都市伏見区に「岡本医院」開設
- 1954年 「医療法人岡本病院(財団)」設立
- 1979年 宇治市に「第二岡本病院」を開設
- 1988年 第二岡本病院から第二岡本総合病院に改称
- 1994年 訪問看護ステーション「ひまわり」を開設
- 1999年 居宅介護支援事業所「ひまわり」を開設
- 2000年 あすなる岡本診療所を開設
- 2002年 京都府初の「特別医療法人」に認定
- 2006年 おかもと総合クリニックを開設
- 2009年 京都府初の「社会医療法人」に認定
- 2012年 「京都府災害拠点病院」に指定  
「地域医療支援病院」に認定
- 2015年 「地域がん診療病院」に指定

